8/10
赤旗

止めよう戦争法案 いま声あげる

青年

駅前熱気700人

神戸

関西の学生でつくる「SEALDs KANSAI」（シールズ関西）は7日夜、神戸市の元町駅前で、シールズ関西としては兵庫県内初の戦争法案に反対する街頭宣伝をしました。

関西電力神戸支店前の抗議行動を終えた青年らも参加するなど、約700人の聴衆が駅前を埋めました。右翼の宣伝車による大音量の妨害もありましたが、スピーチする学生に聴衆から拍手と声援が上がり、熱気にあふれました。

関西学院大学の大野至さん（23）は「戦争が嫌だというのはだれもが持つ感情です。それを言って何が悪い。誰かを殺したくないという思いからなんです」と訴えました。

西谷修・立教大学特任教授、柏木宏・大阪市立大学教授、岩佐卓也・神戸大学准教授、井口克郎・神戸大学講師がマイクを握りました。

関西学院大学の鈴木詩穂（うたほ）さん（19）は「法案自体も怖いし、政府の都合で憲法をねじ曲げることができることも怖い。自分たちが住んでいるところで声を上げるのは絶対に意味があると思う」と話していました。

PEACE NOT WAR

戦争法案に反対する街頭宣伝＝7日、神戸市

議員に要請へ

大阪

戦争法案の問題点を知らせ、廃案を求める国会議員への要請文を集めようと、SADL（サドル＝民主主義と生活を守る有志）が7日、大阪・なんばで街頭宣伝しました。

ツイッターで街頭宣伝の告知を見て手伝いに来た人を含め、7人が参加。「平和とは名ばかりの戦争法案を廃案に」と訴え、200枚のビラを配りました。

自転車を降り、要請文にペンを走らせた中国からの留学生（21）＝大阪大学1年＝は「平和は、先人たちの生命や血と引き換えにもたらされました。私たちはそれを守り、次の世代に引き継がないといけません。法案が通れば平和を求める世界の人々が失望するでしょう」と話しました。

告知を見て、夫とともに話を聞きに来た溝部文世（ぶんせ）さん（50代）は「戦中、愛媛にいた母が対岸から広島のキノコ雲を見、父は徴兵され、あと一歩で死ぬところでした。二度と戦争なんてしてもらったら困ります。憲法9条を大切にしてほしい」と語りました。

壁面使い映写

水戸

戦争法案に反対している若者たちのグループ「Sauda@ibr（そうだあっといばらき）」が6日夜、水戸市のJR水戸駅南口で平和を考えるイベント「THINK0806／PEACE Act.」を行いました。

若い母親や青年、高校生らがリレートークに立ったほか、原爆パネルの展示や原爆をモチーフにした詩と絵本の朗読、オリジナル映像のビル壁面への映写などで戦争法案の廃案をアピールしました。

リレートークで飯田美咲さん（26）＝東海村＝は「悲惨な戦争は繰り返してはならない。娘2人には平和な日本で生きていってほしい」と胸の内を語り、男性（38）＝栃木県益子町＝は「安倍内閣の独裁政治に反対の声をあげていこう」と訴えました。

共同

党派こえ500人

甲府

「とめよう戦争法！集まろう甲府駅前ー8・7山梨集会」が7日夕、甲府市のJR甲府駅南口広場で開かれ、県下各地から500人が集まりました。

県内各地の9条の会や労組、市民団体などでつくる「戦争させない・9条壊すな山梨実行委員会」が開いたもの。関本喜文（せきもと・よしふみ）県弁護士会長や、民主党、日本共産党、社民党などの県代表が「徹底して頑張り廃案にさせる」「たたかいの広がりに確信をもち、力を合わせよう」と、次々あいさつし、パレードの先頭に立ちました。

参加者のリレートークで、甲斐（かい）市の烏谷（からすだに）まゆみさん（65）と、持原ひろ美さん（60）は「安倍首相は抑止力が高まるというけど違う。武器が武器を呼ぶと思う。行動するのは勇気が必要だけど、みんなで声を上げていきましょう」と訴えました。

共産党の小越智子県議が連帯あいさつ。椎葉かずゆき参院比例候補と市町村議が参加しました。

集会後、パレードの先頭に立つ政党県代表ら＝7日、甲府市

危険性明らか

愛知・岡崎

「戦争法案いらない」「憲法守れ」―。愛知県岡崎市で7日夕、名鉄東岡崎駅前にラップ調の戦争法案反対の声が響き渡りました。

同市内の労働組合、女性や業者、平和団体などでつくる実行委員会が呼びかけた宣伝集会に100人を超える市民が参加。各党にも呼びかけ、日本共産党の井上哲士参院議員と木全昭子、鈴木雅子両市議、社民党県連の平山良平副代表が参加しました。

実行委員会を代表して室（むろ）嘉高弁護士は「戦争法案は憲法に照らして全く道理のない法案。廃案まで声を上げ続けよう」と訴えました。

井上議員は参院安保委員会の追及で、クラスター爆弾や劣化ウラン弾など非人道的兵器の輸送も可能と防衛相が認めたことも述べ、「違憲性、危険性は明らか。戦争法案阻止に全力を挙げる」と強調しました。

井上議員の訴えに「そうだ」と賛同の声をあげていた女性（68）は「広島の平和記念式典で安倍首相が非核三原則に触れなかったのは、被爆国の首相として問題。戦争法案が成立したら『米軍の核兵器も輸送する』ということになる」。ビラを熱心に読んでいた男性（54）は「憲法を守るのに保守も革新もない。みんなが一緒になって反対運動することが大事」と話しました。

井上議員（左端）の訴えを聞く集会参加者＝7日、愛知県岡崎市

弁護士

立憲主義守れ

大阪

大阪弁護士会は8日、市民集会「日本はどこに向かうのかパートⅣ～各界から上がる安保法案への反対の声」を大阪市北区の大阪弁護士会館で開き、市民ら548人が参加しました。戦争法案を「立憲主義を否定し、国民主権を侵害するもの」と批判し、速やかに廃案にすることを求める歴代会長有志による緊急声明を発表しました。

松葉知幸会長の開会あいさつに続いて、早稲田大学の水島朝穂教授が基調報告。「安全保障環境が変わった」などの安倍首相発言のごまかしや憲法上の矛盾など戦争法案の問題点を指摘。「違憲立法の法案には、対案ではなく廃案しかない」と語りました。

リレートークで龍谷大学法科大学院の石埼学教授、関西大学の高作正博教授、神戸学院大学の塚田哲之教授、立命館大学の植松健一教授がそれぞれ憲法学者・研究者の立場で法案を批判しました。

明日の自由を守る若手弁護士の会の橋本智子さんが憲法カフェのとりくみ、安保関連法案に反対するママの会の芋縄なつきさんが「誰の子どもも殺させない」、神戸女学院大学学生で自由と民主主義のための学生緊急行動（SEALDs KANSAI）の山口晶子さんが「平和な国、武器を持たない国、戦争に加担しない国であることを示すことが最大の抑止力」、T－ns SOWL（ティーンズソウル）関西の高校生が「戦争に行くのは私たち」と反対の思いを訴えました。

大阪弁護士会市民集会の参加者ら＝8日、大阪市北区内

益川さんらメッセージ

市民集会には、ノーベル物理学賞受賞者の益川敏英・京都大学名誉教授や思想家の内田樹・神戸女学院大名誉教授のほか、作家の森村誠一、玉岡かおる両氏、劇団リリパットアーミーⅡの、わかぎゑふ座長が、ビデオメッセージを寄せました。

益川氏は、憲法解釈をねじ曲げて戦争法案を推し進める安倍政権の姿勢をファシスト的であるとし、「国民を戦火にさらして、命を犠牲にしてまで守らなければならない国益があるとは、私は絶対に思えません」と訴えました。

内田氏は、同法案が成立すれば戦後70年間の国の形が根本から変わると危機感を示し、「クーデターに近いものという国民的な認識がまだ十分ではない。これをきっかけにして政治の形を変えなければならないと強く思います。皆さんと協力して、この法案を廃案に追い込みましょう」と語りました。

憲法学ぶ講座

福島

戦争法案反対を決議し、衆議院での採決強行抗議と廃案を求める会長声明を出している福島県弁護士会は8日、福島市で憲法問題連続市民講座をスタートさせました。

大峰仁会長が「いま『平和安全法制』（戦争法案）問題が熱い状況になっている。憲法の仕組みを学んで、この問題にどう向き合うのがいいのか考えていただきたい」とあいさつしました。

第1回講座の講師を担当した県弁護士会憲法委員会委員の渡邊純弁護士が、「『平和安全法制』と日本国憲法」と題して講演しました。

渡邊氏は、県弁護士会として、戦争法案が憲法9条の平和主義に反し、憲法改正手続きによらず実質的に改憲してしまうという点について合意があり、反対を表明していると説明。集団的自衛権行使の体制づくり、海外派兵法制など法案の内容に立ち入って説明しました。

渡邊氏は、同法案の問題点として、自衛隊をいつでも、どこにでも海外派兵させることが可能になり、兵たん（物資弾薬の輸送）は戦闘地域での武力行使と一体と見られることを指摘しました。

講座には高校生も含め一般市民が参加し、活発な質疑がありました。

ママ

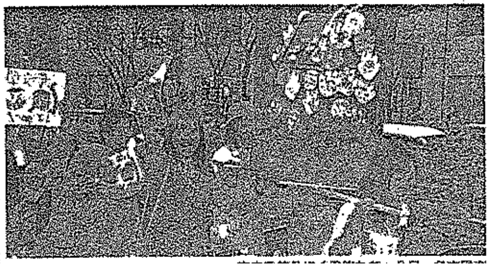
この指とまれ

名古屋

愛知県内のママさんや保育士たちが「子どもを戦争に送りたくない人、この指とまれ」と呼びかけた集いが8日、名古屋市内の繁華街で取り組まれ約800人が集合しました。おみこしやベビーカーに「戦争いやです」などと書いた紙をはりつけたり、浴衣やおそろいの法被で参加するなど、まるでお祭り状態です。

集いが始まった午後5時をすぎても30度を超す中、ママたちは熱中症対策の麦わら帽子や水分補給を万全に参加。ときおり心地よい風の中「私たちは子どもを戦地に送りたくて産んだわけじゃない」と元気いっぱい声をあげました。

3歳の子を子育て中の山森藤子さん（33）は、「中国や北朝鮮の脅威をあおっているけれど、対話による外交の力で物事を解決する努力こそ必要です」と語ります。

山本晃子さん（33）は「子をもつ母として今声をあげないと後で絶対後悔するので」と行動に立ち上がりました。